表１は，縦・横をそれぞれ９等分してできた中央の上下左右に伸びる帯の範囲（図12の模様で示した部分）に入るグループごとの交点の実数と割合を表したものである。

この表から，Ａ において，水平線を画面の中央付近に引いた者が42.6％おり，Ｂ における22.1％の倍近くになっている。このことは可能性として，Ａの者は静物を描く場合のテーブルの線，風景を描く場合の地平線を，画面中央付近にとる者が多いであろうことを示している。

表１

範囲＼グループ	Ａグループ 141	Ｂグループ 86
横	60 (42.6％)	19 (22.1％)
縦	49 (34.8％)	18 (20.9％)
交差した部分	41 (29.1％)	13 (15.1％)

※横・縦の数はそれぞれ交差した部分の数を含んでいる

【調査２】

図13から16がワークシートの演習に使用した絵柄である。出題の要旨は次の通りである。

図13　葉を2枚描き加えてみよう。
図14　好きな果物を描き加えてみよう。
図15　何に振り返ったのか好きなものを描き加え，そして四角の枠で囲んでみよう。
図16　消えている富士山を復活させよう。

図13

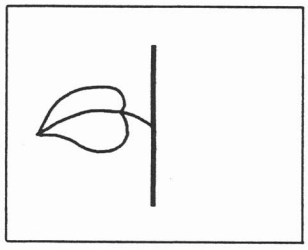


図14

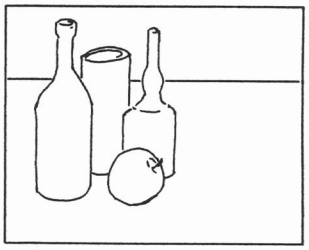
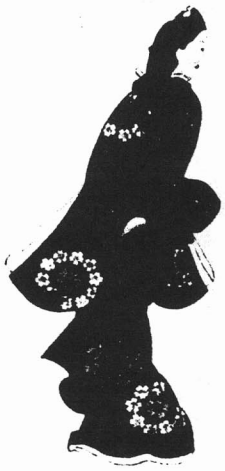


図15



いずれも日常，授業の中でこのような問いかけや演習は行われていると思えるが，仮説検証のためにこの４つの絵柄による演習に絞った。これらの中には，演習の過程において以下の３つの変化を促す要素をちりばめたつもりである。

① 形そのものに対する興味から図と地の認識へ。
② シンメトリー（対称）を好む傾向から非対称を好む傾向へ。
③ 個々が取る画面の中心を中央集中から分散へ。

なお，いずれの絵柄も画面右側に対象者の意識が向くように配置し，選択してみた。

以下，調査の結果を述べる。なお２つのグループを次のように表記する。ここでのグループは描画の傾向とは全く関係がない。

Ｃグループ　ワークシート未実施　220名
Ｄグループ　ワークシート実施　198名

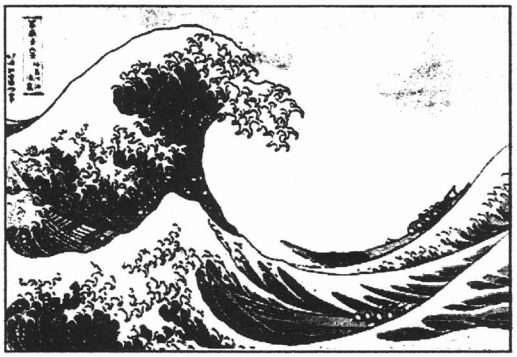



図16